

八郎という竜神が湖をつくろうとして、そこにすんでいた長者夫婦を鶏のなく、八ツ時まで天瀬川へ引っこしさせた。ところが老婆が藤糸のへそを忘れたといって家に取り返ったところ、水があふれ、あたり一面海のようになったので、八郎は足で老婆を西の方になげとばした。

ところで、ちょうど天の邪鬼（あまのじゃく）が、その土地に八郎を住まわせまいとして、鶏のなく八ツ時のかわりに九ツの時をつくったので、鶏のないた時はすでに九ツの時で、大変な水の量になっていたのである。かくて夫は天瀬川、老婆は芦崎（足先）にそれぞれ別れさせられてしまった。夫と老婆は天の神のしわざとも知らず、時をまちがえた鶏をうらんだ。天瀬川には今まで鶏を飼わず、卵を食べない家があった。食べると腹が痛み、目をわずらい、口がはれるといわれるのである。即ち夫殿大権現から生れた伝説が習慣を作った例である。